

2024年8月9日

2024年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 社会福祉法人東北福祉会

ホーム名 せんだんの家

代表者・役職名 氏名 赤坂 尚子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成事業の名称

学習環境整備事業(学習机椅子9セット)

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成10年4月に一軒家を借りて開所。その後平成12年6月30日現在地に移転新築にて開設した。「自立援助の拠点に」という思いで社会福祉法人「東北福祉会」が運営主体として自立生活援助事業を展開する。開設時より男女共有6名、現在9名の定員である。女性専用居室4室、男性用居室5室がある。今年で開所より26年目を迎える。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

定員9名のホームである。現在高校在学者6名、大学生1名、就職者2名で構成。生活基盤を学校に依拠している子が大半である。思春期・青年期を迎え異性への思い、アルバイトの苦悩など多様な感情を形成しながら過ごしている。学びの向上・学びの環境の充実が彼らを押し上げている。学歴社会は、子どもたちに高校卒業資格の取得、通信制への編入学や高卒認定試験合格証等柔軟な道を選択させてくれる。学びのやり直しのためにも学習環境の充実は急務である。そのような思いで、本プロジェクトを立ち上げた。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

各居室に学習机9台・椅子9脚を配置する。リーズナブルな販売店で見積もりを取り申請していく。これまでの机・椅子の再利用も考慮しているが、20年来使用した物品であり、新たな使用には耐えないと判断している。法人内部でも調整する。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

プロジェクトの具体的な内容を伝えることで、新たな居室の風景が変わったことで課題への取り組み等で積極性が見られている。「32万もかかっているんだね。」「ぴかぴかでいい匂いがする。気持ちがいいな。」「通信制のレポート頑張ります！」などの感想が寄せられている。学習意欲の喚起の一翼を新生機・椅子が担っていることの表れであろう。就労から就学へ子どもたちのニーズも大きく変容している。時代の要請もある。学びの充実に向けた環境整備は今後も継続しなければならない。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

学習環境整備事業の入り口として、机・椅子同一規格のものを各居室に配置した。学ぶための「環境刺激」という観点では、図書の充実も必要となる。書物は施設予算で進めていきたい。また、オンラインによるレポート提出等が盛んに行われている。学びに能動的に関わるための、児童用パソコンを展開できるオンライン設備の拡充にも取り組みたい。プロジェクターを活用した共同の学びの場も考えていきたい。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動（1状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください。）

